（別紙様式４）

平成２８年６月３０日現在

職業実践専門課程の基本情報について

学　校　名	設置認可年月日	校 長 名	所　　在　　地
読売理工医療福祉専門学校	昭和51年６月１日	渡　邊　敏　章	〒108-0014 東京都港区芝 5-26-16 （電話）03-3455-0221
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所　　在　　地
学校法人　読売理工学院	昭和45年１月31日	千　葉　康　文	〒108-0014 東京都港区芝 5-26-16 （電話）03-3455-0221

目的	実技教育と資格教育をバランス良く配し、調和の取れた教育課程を編成する事により、建築技術者として必要な、実践的な建築技術と技能を教育することを目的としている。

課　程　名	学　科　名	修業年限（昼、夜別）	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
工業専門課程	建築科（夜間部）	２年（夜）	８４単位	平成19年文部科学大臣告示第21号	―

教育課程	講義	演習	実験	実習	実技
	６０単位	１２単位	１単位	１３単位	０単位

生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数
８０人	４７人	５人	１４人	１９人

学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日	成績評価	■成績表（有・無） ■成績評価の基準・方法について 試験、出席、実習レポート等の総合評価
長期休み	■学年始め：4月11日 ■夏　　季：8月 1日～ 8月31日 ■冬　　季：12月25日～ 1月 7日 ■学 年 末：3月21日～31日	卒業・進級条件	進級：必修科目を含む修得単位数の合計が40単位以上 卒業：必修科目を含む、修得単位数の合計が82単位以上
生徒指導	■クラス担任制（有・無） ■長期欠席者への指導等の対応 本人、家に電話	課外活動	■課外活動の種類 ■サークル活動（有・無）
主な就職先	■主な就職先、業界 建設会社、設計事務所 ■就職率※1　１００％ ■卒業者に占める就職者の割合※2 ４６％ ■その他（任意）進学率　０％ （平成２７年度卒業者に関する平成２８年４月時点の情報）	主な資格・検定	建築士・施工管理技術検定の受験資格認定

中途退学の現状	■中途退学者　　５名　　■中退率　２３％ 平成２６年４月　１日在学者　２１名（平成２５年４月入学者を含む） 平成２８年３月３１日在学者　１６名（平成２６年３月卒業生を含む） ■中途退学の主な理由 経済困窮、出席不良、進路変更 ■中退防止のための取組 補習、学生カウンセリング、奨学金の支給等
ホームページ	URL:http://www.yomiuririkou.ac.jp/

※１「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」の定義による。

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとする。

②「就職率」における「就職者」とは、正規の職員（１年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいう。

③「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

※「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。

※２「学校基本調査」の定義による。

全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料，賃金，報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが，家事手伝い，臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。）

１．教育課程の編成

（教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針）

教育課程の編成に関しては、企業、各種団体等と連携し、最新の建築技術を教育に取り入れる事と、建築士、施工管理技士等の認定校として、卒業後、資格試験に合格できる教育を行う事を基本方針としている。

日々進歩する建築技術、CAD､BIM 等を教育に反映するために、兼任教員は実務で活躍している技術者招聘し、職業実践教育を、実習等の科目だけで無く座学においても取り入れている。また、建設業界の動向に注目し、新しい機材やＣＡＤソフトの導入にも積極的に対応している。

（教育課程編成委員会等の全委員の名簿）

平成２８年　６月３０日現在

名　前	所　　属
鹿毛　信一	河端建設株式会社　工事部　部長
高橋　宏志	公益社団法人　日本建築士会連合会
渡部　俊一	ＳＤ建築設計株式会社　一級建築士事務所　代表取締役
尾林　徹	読売理工医療福祉専門学校　校長補佐
黒田　幸弘	読売理工医療福祉専門学校　建築学科　学科長

（開催日時）

第1回　平成２８年 ７ 月３０日　　１６：００～１８：００

２．主な実習・演習等

（実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針）

建設業界は、日々進化している、IT を使用した情報ネットワーク、災害が起きる度に変わる法律、新しい工法や、JISS、指針の改正などが行われている。

それらの建築分野に関する職業に必要となる実践的かつ専門的な能力を育成するため、実習・演習等の授業において企業等との組織的な連携を通じて、最新の技術動向が反映された技術・技能を教育する。

科　目　名	科　目　概　要	連　携　企　業　等
ＣＡＤⅠ	JW-CAD で、使い方の基礎、レイヤの概念、RC 造のマンションの平面図、立面図等の描き方を勉強する事で手書き製図との違いを理解する。スケッチアップで３Ｄも学ぶ。	カラビナ一級建築士事務所
ＣＡＤⅡ	Vector Works での作図方法を修得する。同時に様々な構造種別、各種図面の作図方法を学び、各自の設計作品に活用する。	一級建築士事務所タツゾウ事務所
設計製図Ⅱ	設計製図Ⅰで勉強した知識を基礎にして、より高度な計画力、表現技法を学び、社会に通用する設計製図力を養う。主に、事務所ビルの設計を行う。	星設計室

３．教員の研修等

（教員の研修等の基本方針）

建築分野の実務に関する研修として、建築学会・建築士会・建築教育連絡協議会等が開催する研修会や、東京都専修学校各種学校協会・東京都私学財団等が開催する研修会に計画的に参加、実務に関する知識・技術の修得と学生指導力の向上を目指す。また、企業等から講師を招聘し、校内での講習会も開催する。

４．学校関係者評価

（学校関係者評価委員会の全委員の名簿）

平成２８年　６月３０日現在

名　前	所　　属
渡部　俊一	読売理工専校友会　副会長
風間　正弘	建築学科学生保護者
湯浅　孝雄	慶応仲通り商店会　会長
羽場　宏祐	(株)インターナショナルクリエイティブ　特別顧問
鹿毛　信一	河端建設(株)　工事部部長
武田　知明	東邦電計(株)　営業部部長
笹口　友美	北里大学北里研究所病院　看護部　看護師
大庭　尚子	港区立特別養護老人ホーム港南の郷　保健課長

（学校関係者評価結果の公表方法）

URL ： http://www.yomiuririkou.ac.jp/about/

５．情報提供

（情報提供の方法）

URL ： http://www.yomiuririkou.ac.jp/about/

授業科目等の概要

（工業専門課程建築科）平成２８年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
		○	海外研修	平成19年より、オーストラリア、クイーンズランド州立専門学校と姉妹校提携をしており、ホームステイをしながら、英語や歴史・文化について学びます。	1前	36	2		○	
○			建築計画Ａ	建築計画Aでは、「住宅」（集合住宅を含む）をテーマに、建築計画の基礎的な知識を習得する。また、後半では、事務所ビルも取り上げる。	1通	72	4	○		
○			建築計画Ｂ	建築計画Aで学んだ知識を基礎とし、各種用途の建築物を計画するに当たり必要な基本的知識を学ぶと共に、関連する法規についても学ぶ。	2通	72	4	○		
○			建築史	過去の建築がどのようにして創造され、長い歴史の中でどのように変化してきたのかを知る事は、新しい建築を考える上で重要である。写真等を通じて理解を深める。	1後	36	2	○		
○			現代建築論	現在の建築デザインの最先端を常に意識しながら、現代の建築理論の基礎的な流れを知り、さらに理論を踏まえながら各自の作品に反映できるまで理解を深めて行く。	2前	36	2	○		
○			都市計画	個々の建築を合理的に造っても、集合体である都市空間は必ずしもよくならない、住みやすい都市空間を創造するために、いかなる形態で有るべきかを探求する。	2前	36	2	○		
○			インテリア計画	インテリアコーディネーター、インテリアプランナー等の資格取得を目的とし、総論として内装計画の基礎を学ぶ。	1前	36	2	○		
○			インテリア計画演習	1 年の時学んだ「インテリア計画」の知識をさらに深め、演習問題などに取り組むことにより、より実践的な知識を身に付けさせる。	2前	36	2			○
○			環境工学	室内気候や光、音、身の回りに有るのに、分かっているようで分かっていない、その身近な現象について勉強する。	2後	36	2	○		

○			建築設備Ａ	給排水設備の概要、上下水道と自然の水環境、水の物理的、科学的性質を学び、その後各種システムの特徴を知ることで建築計画・設計が行えるようにする。	１前	36	2	○		
○			建築設備Ｂ	空気調和設備の概要、熱媒の運搬方式による分類・特徴、主要な機器の概要を理解させ建築計画・設計の際の参考とする。	２後	36	2	○		
○			建築法規	建築基準法を中心に、それに関係する各種法令を学ぶ。建築基準法では、単体規定、集団規定、制度規定などを学習し、建築士法、都市計画法などにも触れる。	１通	72	4	○		
○			構造力学Ⅰ	建築物は積載荷重、自重だけでなく、地震・風圧等の外力を受けている。その構造力学の基礎となる、力のつり合いを学び、反力と応力の算定方法を学習する。	１通	72	4	○		
○			構造力学Ⅱ	力のつり合いだけで解けない構造物（不静定構造物）が、外力を受けた時の応力の大きさや変形を求める手法を学ぶ。	２通	72	4	○		
○			材料力学	各部材に生じる変形及び応力を基礎から理解させ、演習問題により構造的な物の考え方に慣れさせる。	１後	36	2	○		
○			鉄筋コンクリート構造	鉄とコンクリートの材料による力学的特性、梁や柱の部材特性を学んだ後、それを基に構造計画、柱、梁、スラブなどの設計手法を、理論と演習を反復しながら学ぶ。	２前	36	2	○		
○			鉄骨構造	鉄骨の構造計算手法を学び、次に、鋼材の性質や力学的特性および許容応力度の算定法を学習する。はり、柱、トラスに分けその設計法を学習する。	２前	36	2	○		
○			建築施工	建物を造るのに必要な、仮設、工事管理、地盤調査、杭、根切り山留め、地業、鉄筋、型枠、コンクリート、鉄骨、木、防水、内装全ての工事について学習する。	１通	72	4	○		
○			建築材料	材料の性質、用途・機能に適した選定、構造材・仕上げ材の使い分け、防災、など簡明に基礎知識を習得させる。	１通	72	4	○		
○			建築構法	建築計画、構造、施工、法規、設計等、の教科を関連づける総合的な教科で主体構造（RC造、木造、鉄骨造）や各部構法を通じ建物の仕組みや構造体の特性を勉強する。	１通	72	4	○		
○			建築積算	卒業後の積算士の受験を考慮し、建築数量積算基準に基づいて、材料の数量算出を学ぶ。仮設、躯体、仕上げの各部分の数量計算方法を学んで積算技術を習得させる。	２通	72	4	○		

○			設計製図Ⅰ	製図の基本となる様々な規約を学習し、各種図面の表現方法を木造・RC造・鉄骨造を描き写すことにより図面の描き方を習得させる。後半では木造の設計法を学習する。	1 通	180	5			○
○			設計製図Ⅱ	設計製図Ⅰで勉強した知識を基礎にして、より高度な計画力、表現技法を学び、社会に通用する設計製図力を養う。主に、事務所ビルの設計を行う。	2 前	72	2			
○			ＣＡＤⅠ	JW-CADで、使い方の基礎、レイヤの概念、RC造のマンションの平面図、立面図等の描き方を勉強する事で手書き製図との違いを理解する。スケッチアップで3Dも学ぶ。	1 後	36	1		○	
○			ＣＡＤⅡ	Vector Works の使い方を覚える。同時に様々な構造種別、各種図面の作図方法を学び、各自の設計作品を仕上げる。	2 前	72	2		○	
○			建築測量	各種測量方法を習得し、実習地において、測量機器の取り扱い、データの調整計算などにより実務能力を養う。水準測量、トランシット測量、平板測量等を学ぶ。	2 前	36	1			○
○			材料実験	コンクリートについて、骨材の試験、調合設計、圧縮力試験や鉄筋の引っ張り試験を行い、その材料特性を理解し、同時に試験方法、報告書の書き方などを学ぶ。	2 前	36	1			○
○			パースペクティブ	作図を中心に行い、立体感覚・作図技術を習得する中で、各段階で図面構成から色鉛筆による着彩スタディまでを学習する。	1 通	72	4		○	
○			資格講座学科	この講座は、在学中（卒業年度）に受験できる2級施工管理技士学科試験の受験対策授業である。	2 後	72	4	○		
○			資格講座設計	二級建築士の学科には計画・施工・構造・法規の４つの分野があり、その基本的な過去問題を学び、試験合格に必要な力を付けさせる。また製図試験の概要も告知する。	2 後	36	2			○
○			プレゼンテーション技法	自分の考えを第三者に理解させるために、言葉や文字や図などを用いるのが「プレゼンテーション」という。その技法を学び作品表現力向上を目指す。	2 後	36	1		○	
○			卒業設計	今まで習得したCADの製図技術・CGのプレゼンテーション技術を応用し、コンセプトの作成・エスキースから作品の発表に至るまで、パソコンを用いた図面表現を行う。	2 後	108	3		○	
合計				３２科目	１８３６単位時間（８６単位）					